

日本地衣学会

No.43

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	会員通信.....	149
	ガードレールは地衣だらけ／川名興・HUR Jae-Seoun・原田浩	149
	丹沢大山総合調査 余禄／小林義弘.....	151

会員通信 From Members

ガードレールは地衣だらけ

事の始まりは、千葉県南部に位置する富山町(とみやままち)周辺の地衣類を6月に川名が調査中、ガードレールにたくさんの地衣類が生えていることを発見したことである。しかも、複数の地点で、以前、川名は千葉県南部の別の地点でもガードレールにたくさん地衣類を生えているのを見つけ、いつか行こうと原田に持ちかけていたのだが、それが実現する前に、もっとすごい場所を見つけたというのだ。確かに写真からそれが伺える。しかしそれだけではなかった。採集した標本を見ると、独特な形をしていることに気付いた。それは写真からも見て取れた。7月になり原田の下に学術振興会の二国間協力により来日した韓国のHurも、これに興味を持ち、是非とも現地調査をということになった。

7月14日、千葉市を発ったHurと原田は千葉県南部に位置する富山町岩婦湖畔で川名と合流した。暑い一日の始まりだ。

岩婦湖のすぐ脇のガードレールには直径約12cmのウメノキゴケを始め、数個体の葉状地衣が認められた(Fig. 1)。それから南下し、次いで東側の谷に移る。第2の地点では、更に多数の葉状地衣が認められた。第3の地点では、地衣類の断片をまとう小さな糞虫に出会った。ガードレールに生えるウメノキゴケをかじって糞の



Fig. 1. ガードレールに生えるウメノキゴケ(中央)とマツゲゴケ(右)。ウメノキゴケは直径約12cm, 10歳ほどと推定される。富山町高崎。



Fig. 2. ウメノキゴケを藓の素材に使う藓虫。ガードレールに生えるウメノキゴケのごく近くの藓虫は、この地衣を藓に使っていた。富浦町大津。

素材にしているようだ (Fig. 2)。第 4 の地点ではウメノキゴケ・マツゲゴケ・ナミガタウメノキゴケ・トゲウメノキゴケ・コナヒメウメノキゴケといった葉状地衣に混じり、痂状地衣であるマルゴケ属 *Porina* とワタハリゴケ属 *Byssoloma* の生育も確認できた。おまけに反射板になっている交通標識にもコナヒメウメノキゴケなどがびっしりと生えているのには驚いた (Fig. 3)。第 5 の地点では、前出の葉状地衣に加え、センシゴケやゴンゲンゴケ属などが加わった (Fig. 4)。第 6 の地点では、再び藓虫に出会った。また、ガードレールの直ぐ背後に立つ杉の幹に生えるウメノキゴケには多数の子器があった。有子器のウメノキゴケを初めて見る Hur は、いたく感激し、写真に収め、標本を採取したことは言うまでもない。第 7 の地点では、シラチャウメノキゴケと思われる葉状地衣と、更に、コフキチリナリアもガードレール上で見つけた。第 8 の地点では、ワリキウメノキゴケらしき葉状地衣を見つけたが、持ち帰ってルーペで見るとゴンゲンゴケ属のようであった。

原田の経験では、千葉県南部では、橋の欄干やガード



Fig. 3. 道路標識が葉状地衣で覆われていた。反射板であり、表面はつるつるに見えたがコナヒメウメノキゴケなどが生える。黒の塗装の上の方が地衣類の着きは良いようだ。富浦町大津。



Fig. 4 古くなったガードレールに様々な地衣類が湿っていて生えていた。このような光景を繰り返し見ると、古いガードレールは地衣類の格好の住処に見える。富浦町大津。

レールに地衣類が生える場所を何度か見ているが、これほど次から次へとガードレールに地衣類を見つけることができる場所は他に知らない。

古くなったガードレールは、塗料の表面が程よくざらつき、地衣類の粉芽や地衣菌の子嚢胞子の付着に適しているであろう。また、比較的明るい場所を好むウメノキゴケ類にとって、このような道路脇では適度な光環境

が保たれているに違いない。古いガードレールは、まさに地衣類の樂園であった。

さて冒頭で、ガードレール上の地衣類の形が独特であり、それが調査の動機であることを述べたが、その結末については、別報として学会誌 *Lichenology* に投稿する予定。

(川名興・HUR Jae-Seoun・原田浩)

丹沢大山総合調査 余録

8月7日、神奈川県からの委託を受けた上記調査の一環として、丹沢湖・大又沢上流の忍橋上部を調査しました。メンバーは木下靖浩(リーダー)、安齊唯夫、小林義弘。

指定の調査地点でひと仕事終わったころ、予想通り「ゴロゴロ・・・」とカミナリさまのご到来、雨も降り出し、慌てて退散。しかし、幸いの小雨をいいことに、丹沢湖に帰り着くまで何度も停車、下車を繰り返しました。

停車指示を出すのは、いつも安齊さん、流石に目が利きます。走る車から地衣類を見つけるのです。それも確実に、それに応えて、奈落の谷に沿った林道でプレーキを踏むのは木下さん。それも確実に。私は何もせず、ただ乗っていただけです。

何回目かの「停めてエー」の声で、車窓の外を見れば、トラック用の古タイヤが三本、何かと、訝しげに近づくと、安齊さんが盛んにガードレールを指差し、次いでタイヤを、そこにはなんと地衣が盛り上がっていっぱい生育(Fig. 1)。

その様は並ではなく、それぞれを写真に示しましたが、ガードレールにはマツゲゴケ、センシゴケ、カラクサゴケの仲間(Fig. 1C & D)が立派な形をしていますし、古タイヤでは、ヤマトキゴケが円周に沿って並んでいます(Fig. 1A & B)。木下、安齊ともども、「基物がガードレール、古タイヤとは珍しいイー」と感心することしきり。(ここに書いた地衣類の種類は、後日、千葉県立中央博物館の原田浩先生、木下さんに教えていただいた)



Fig. 1. 古タイヤとガードレールに地衣が生えていた。A, さっそく写真撮影にとりかかる安斉氏。B, 古タイヤに生えるヤマトキゴケ (Fig. 1Aのbの箇所)。C, D, ガードレールに生えるカラクサゴケの仲間 (Fig. 1Aのcの箇所)。

塗装されたガードレール表面では、ある種の蘚苔類が下地を作ったのかも、古タイヤでは、その表面粗度が胞子が入るのにちょうど良かったのかな、今日の釣果否サンプル採取数は50点を超えた、等々、話すうちに車に揺られて安斉さん、気持ちよさそうにコックリ、コック

リ……。この大きく揺れる車の中でよくもまあ……。お疲れさまでした。こうした催しに初めて参加させていただき、ベテランお二人の現地調査の真剣さに感心・感服の一日でした。

(小林義弘)

●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌42号148ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 42, p. 148 of this publication.

日本地衣学会ニュースレター 43号

発行日：2004年 10月 4日

編集：原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄
発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内